

令和7年度

1 学年「ヒューマン特別講座」授業報告

◎ 4月17日(木)

「オリエンテーション」

担当:本校教員

- ◇対人ヒューマンサービスの専門技術職に要求される能力、資質について
- ◇受講するにあたっての留意事項、特別講座の年間計画、内容について
- ◇47回生 学年主任より(代読)

≪講義の様子≫



≪生徒の意気込み≫

私が総合ヒューマン類型に入学した理由は、将来、保育士になりたいからです。外部講師による特別講義を魅力的に感じています。その中でも「赤ちゃん先生」という育児体験で、子どもと実際に触れ合うことで、命の大切さや子どもの興味について学びたいと思いました。総合ヒューマン類型の一員になって、これからの意気込みは、本校の校訓である「克己・協調・創造」を心掛けて過ごそうと思います。その中でも協調・創造を大事にしていきたいと考えています。総合ヒューマン類型のみんなとコミュニケーションを取って協力し、それぞれの目標を目指したり、いろいろな体験をして新しい学びを見つけたりしたいです。何事においても、自分事と捉えて、いろいろな事に挑戦し、頑張っていきます。

私は将来、保育士になりたいです。認定こども園で働きたいと思うので、幼稚園教諭、保育士の2つの資格を取る必要があります。高校生のうちから教育について学びたいと思いました。総合ヒューマン類型では、実際に幼稚園、保育園に行く機会があり、それ以外にも特別講座があるため、貴重な体験をして、夢への基盤を作りたいと感じました。資格を取るために必要なことを、自ら積極的に調べ、身につけていきたいです。そして大学では教育以外にも、子どもと接するときに必要な心理学についても学んでいきたいと考えています。また、認定病児保育スペシャリストの資格も取って、どんなときも臨機応変に対処できるような保育士になりたいです。

将来の夢は管理栄養士になることです。得意な料理を活かしながら、たくさんの人を助けたり支えたりしたいと思い、管理栄養士を目指すようになりました。そこで、ヒューマン特別講座を受け、専門的知識を身につけ、大学での体験や講義を将来の夢に活かせると思いました。高校卒業後には大学に進学して管理栄養士の国家資格を取りたいと思っています。そのために、校外学習や特別講座で積極的に質問をしたり、メモを取ったりして、自分の長所を活かしながら取り組んでいきたいです。

私が総合ヒューマン類型に入学した理由は、医療や看護の知識をつけながら、福祉について学ぶためです。私の曾祖母の訪問介護士が手厚く介護してくださったのがきっかけです。その介護士がたくさんの医療器具を持っていることに気づき、福祉はもちろん、医療や看護の講義も集中して聞きたいと思いました。講義で学んだことをすべて自分の知識として吸収できるように、メモを取ったり、家でまとめ直したりします。先生方には、礼儀正しく、明るく、笑顔で挨拶をして、積極的にコミュニケーションを取れるように頑張りたいです。

◎ 4月24日(木)

「知って！ボラセン！ ～ボランティア活動のススメ～」

担当：伊丹市社会福祉協議会

新開 実莉 先生

- ◇ボランティア・市民活動センター(ボラセン)の主な働き
- ◇ボランティア活動の種類
- ◇災害ボランティアセンターとは、能登半島地震、被災地の様子、高校生によるボランティア活動
- ◇伊丹西高ボランティア部の活動について(ボランティア部より)

《講義の様子》



《生徒の感想》

ボランティアといえば清掃活動のイメージが強くありましたが、いろいろな種類があり、趣味や特技、経験を活かしたボランティアもあることが分かり、ボランティア活動が社会に与える影響やその重要性を深く学ぶことができました。ボランティア活動はそれぞれ異なる目的や方法があることを知り、自分がどのような形で参加したいかを考えるきっかけになりました。例えば私の趣味と特技である料理とスポーツを活かしたボランティアに興味を持ちました。料理では、子ども食堂に行って自分が作ったものを食べてもらい、いろいろな世代の方々と交流を通して自分の短所である人見知り改善できると考えています。またスポーツでは、幼い頃から積み上げてきた経験を通して、自分も楽しみながらボランティアとして誰かの役に立てることをとても魅力に感じました。講義を受けて、ボランティア活動の重要性を知り、この活動がいかに自分や周囲の人々に影響を与えるかを考え、今後、積極的に参加していきたいと思いました。

私は今回受けた講義で2つの発見がありました。1つ目は、ボランティアセンターが地域の人とコミュニケーションをとる大切な場所だということです。子ども食堂や老人ホームなどに行くことによって地域に貢献できるのはもちろん、活動を通して様々な世代の人とコミュニケーションをとり、地域で助け合うという意識が自然と生まれてくるのではないかと思います。2つ目の発見は、ボランティアセンターは自分が思っている以上に身近なものだということです。ボランティアと聞くと、私は災害救助ばかりを想像して「自分はそんなふうに行動できない」と思っていました。しかし、「足が悪くてもできることを全力でやっているように、できないことを探すよりも、できることを全力でやってみよう」という先生の言葉で、自分にできることはたくさんあるのではないかと考え直すことができました。私は子ども食堂にとっても興味があります。私は子どもが好きで体を動かすことも好きなので、そういったものをボランティアでいかしてみたいです。

私は今までボランティアについて触れる機会がなく、どのような種類があるのか、どのような人達が参加しているのか、などの知識がありませんでしたが、今回の新開先生によるスライドや動画を用いた講義で様々なことを知ることができました。特に印象に残ったものは、能登半島地震の写真です。一年前に発生した地震が多く犠牲者を生み出したことや、周辺のインフラが破壊されたことは知っていましたが、私とはあまり関係のない話だという認識でした。ですが、実際に現地に行った方から聞く話や、現地の写真を見ると、その実態がどれほど悲惨なのかを思い知らされました。そうした悲しい現実を受け入れ、今までの幸せを取り戻そうと必死で復興する人たちとともに、日本中から集まったボランティアの方々の心の温かさに尊敬の念を持ちました。この講義の影響で、私もボランティアの良さに気づいたので、ボランティアに参加してみようか考えさせられる自分の為になる講義でした。

◎ 5月21日(水)

「園田学園大学 施設見学および体験学習」

担当: 園田学園大学

後藤 紗季 先生 他

◇大学学食ランチ体験

◇看護分野・保育教育分野の講義

◇園田学園附属幼稚園見学

◇大学・学科説明

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回、大学へ行って見て、学んだことが沢山ありました。まず幼稚園に行った時に、実際に子どもたちと関わる中で少しずつ仲を深めていけたと思います。最初は恥ずかしそうにして、しゃべらない子もいましたが、その子の興味のあるものについて話をしたり、一緒に折り紙をしてみたり、だんだんと子どもたちの顔が変わっていき、自分たちから話をしてくれたり「こっちきて!」「見て見て!!」と楽しそうにしている姿や様子を見て、とても気持ちが温くなりました。また、短い時間の中でも、人と仲良くなれたり、すぐにその場に馴染むことができる子は本当にすごいと改めて思いました。実際に体験することによって学ぶことも、また考えることもたくさんありました。なかなか体験できない大事な機会、一回一回を大切に、他の体験や将来に繋げていける学びができるよう、これからも頑張りたいと思いました。次にこのような体験ができれば、「子ども」と関わり新たに発見することも大事ですが、「先生」(教諭)の視点から見たり、仕事内容や新しく気づいたところを探していけるよう頑張ります。

看護職についての話を聞き、驚いたことが2つあります。まず、男性看護師の割合が低いことです。全国でわずか10万人ほどしかないことが分かりました。そして2つ目は、助産師の人数が4万人に達していないことです。子どもの減少も助産師が少ない理由の一つだと聞き、少子化がいろいろなところで影響していることを学びました。

また、体験学習では、乳児の着替え、おむつ替えをしました。私にとっては、どちらも初めての経験だったので上手くできませんでしたが、講師の方の協力も得ながら、なんとかやり遂げることができました。特に大変だと感じたのは着替えで、乳児はまだ首が座っていないため、服を下に入れ込む時に首がぐらぐらと動いてしまいました。その作業が大変でしたが、良い経験になりました。今回の体験を通して乳児の世話の大変さや看護職について詳しく学べたため、自分の視野を広げることができたと感じました。

今回の講義は、園田学園大学で看護職について学びました。看護系の仕事をするには高校卒業後、大学や養成所(専門学校)で看護師課程を専攻しなければならないことを知りました。また、大学では保健師や助産師についても学べると知りました。特に印象に残ったお話は、人から信頼されるには知識や技術だけでなく、相手の立場や状況に立って物事を考え、思考力や洞察力、コミュニケーション力をつけることが大切だということです。これは看護師だけではなく、私の将来の夢である訪問看護師にも必要とされる力だと思います。また、看護師は患者さんから「ありがとう」と感謝をしてもらったり、患者さんが元気になって退院したり、いろいろな人生に関わることができたり、人から頼りにされたり、一生懸命になれる、やりがいがたくさんある仕事だと分かりました。そして体験学習では、赤ちゃんの人形を使って、服の着替えやおむつ交換をしました。赤ちゃんはとても丁寧に扱わなければいけないと分かりました。とてもたくさんの学びがあった講義でした。

◎ 5月29日(木)

「柔道整復師と理学療法士」

担当: 森ノ宮医療学園専門学校

岸上 知可 先生

◇柔道整復師とは？ 3つの治療(回復・固定・後療)

◇柔道整復師と理学療法士との違い

◇授業体験(スポーツ選手の怪我の原因)

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は柔道整復師という仕事を初めて知りました。スポーツで怪我をした時に利用する接骨院にいる先生は、医師だと思っていましたが、運動器を専門とする柔道整復師の方だと知りました。また、この仕事はスポーツにも関わることができるので、とても魅力を感じました。私は人を支える看護系の仕事と、スポーツが好きなので体育の教員にも興味がありました。柔道整復師はそのどちらも持っているのも良いと思いました。今日の講義で、この仕事を知ることができてよかったです。ヒューマンの授業では、毎回、将来の視野が広がるので、入学してよかったと改めて思いました。理学療法士は、病院で患者さんが歩けるようにリハビリをしたり、病院内のジムのようなところでトレーニングを隣で支えたりする人というイメージがありました。それらはすべて、基本的動作能力の回復を目的としているものだと知りました。私も以前、リハビリを受けたことがあります。先生はとても優しく教えてくださいました。患者さんにとって大変なリハビリも先生と一緒に乗り越えられると思います。リハビリの時の声掛けは、人を支える素敵な仕事だと思いました。

理学療法士と柔道整復師の講義を受けて、体のケアやリハビリに関する職業の大切さを実感することができました。どちらも「人の身体を治す」という共通点がありますが、それぞれに得意な分野や役割の違いがあり、とても興味深かったです。特に印象に残っているのは見た目を重視する競技の選手が、少しの衝撃で骨折した動画です。見た目を気にしすぎてしまうと体の内側で骨が弱ってしまい、骨折するリスクが上がるので、体の健康状態を優先するのはとても大切だと強く感じました。また、柔道整復師は患者さんにとって身近な存在であり、スポーツの現場でも活躍できるというところにとっても惹かれました。スポーツ中の捻挫や打撲による怪我に対して、その場で応急処置を行ったり、サポートをしたりなど選手をすぐ近くで支えることができるので、すぐに対応してくれる存在であるこの職業はどれほど大切か伝わりました。私はスポーツ関係の職業にもとても興味があるので、進路を考える際には、スポーツや医療も視野に入りたいです。

今回の講義を受けて、柔道整復師と理学療法士の2つの職業について学ぶことができました。私は過去に整形外科でリハビリを受けたことがありますが、その時に担当して下さった先生がどのような資格を持ち、どのような役割をしていたのか、当時は考えたことがありませんでした。今回の講義で、柔道整復師は「回復、固定、後療」という治療を通して、人間が持つ自然治癒力を最大限に引き出す「皮膚の上から治療するプロ」ということが分かりました。また、理学療法士は基本的動作能力の回復を目的にリハビリをする「動作の専門家」であり、中枢神経疾患や内部障害など、幅広い疾患に対応できることを知り、驚きました。同じ「体を治す」職業でもそれぞれ得意なことや働く場所の違いについてなど、今回の講義を通して初めて知ることが多く、とても勉強になりました。講義を受け、これまで知らなかった職業について知ることができ、視野が広がりました。今後も様々な分野に興味を持ち、学んでいきたいです。

◎ 6月19日(木)

「心理学について」

担当: 梅花女子大学 心理こども学部

大芝 宣昭 先生

◇心理学とは? ・基礎心理学(知覚心理学、社会心理学) ・応用心理学(臨床心理学)

◇心理学を学んでおけば、賢く生きることができる。ゆたかに生きることができる。

《講義の様子》



《生徒の感想》

心理学の講義を受けて、普段からいろいろなところで触れていることが分かりました。応用心理学では、出力を得るためにどのような入力が必要か考えることが大切だと感じました。例えば接客では、相手に好印象を与えるために言葉の選び方や視覚的な工夫がされていて、このような出力を得るために「どのような言葉を使うか」「どのようなタイミングで話すか」という「入力」を考えることが応用心理学に繋がっているのだと気づきました。また、心理学の知識を身につけることで、自分自身や他人の考え方や行動をより深く理解できるようになり、人間関係や日常生活にも役立つと感じました。私はテニスをしているので、試合中のメンタルの保ち方や、相手のプレーにどのように反応するかという点でも心理学が活かせると思いました。ミスをした際の相手の焦りやペースを見て戦術を変えることも深く関わっていると分かりました。心理学は、人間関係の中でも重要な役割を果たしていることに気づき、意識的に活用していきたいと思いました。

今回の講義で新しく学んだことがたくさんありました。1つ目は社会心理学についてです。大中小の長さの棒を見て、一番長い棒を言うという実験をすると、自分以外の複数人が二番目に長い棒を選ぶと、被験者も二番目に長い棒を選んでしまうという結果になりました。このように自分の意見を他人に合わせてしまうことを「同調」ということを学びました。私は「同調」して周囲に合わせるのではなく、自分の意見も他人の意見も尊重し、主体性を持って周囲にとけ込む「協調」を意識しようと思いました。2つ目は心理学の実用性についてです。心理学を学べば賢く生きることができることを知りました。例えば、スーパーマーケットでは、「ゴールデン・ゾーン」という顧客の目線の先に売りたい商品を置くということや、「エンド陳列」という購入率の高い陳列棚の端に商品を置くといった、人間の心理を活用して工夫しています。こういった場所に陳列されている商品は、あくまで店側がはやく買わせたい＝賞味期限が近い商品である可能性があります。しかし、心理学を学べば店側の思惑も分かり、対策することもできます。このように心理学は、人と関わることはどのような事柄でも関係してくるので、心理学を学べば賢く生きることができると思いました。心理学を学んでみたいと思いました。

心理学を学ぶことにより、日常生活に新たな視点を追加できたと思います。今回の講義内容は、将来に活かすというより、日常的に用いることで習慣化し、日常生活をより豊かにするということが大事だと思いました。具体的な例としては「単純接触効果(ザイアンス)」が私は特に良いと思いました。理由は、非常に使いやすいからです。私はこの先、高校を卒業し、社会に適応していかなくてはなりません。ですが、世界には様々な人が存在し、なかには私を悪い方向へ引っ張る人もいます。なので、関わる人を選び、自分と相手の両方を高め合える人と交友関係を結ばなくてはなりません。そういった人達と多く関わることで、上記の効果が発揮され、好意や親近感を互いに芽生えさせることができます。このように自分の将来と日常生活の両方を豊かにするために、この効果を習慣化していこうと思います。心理学について興味を持ったので、学んでみたいと思いました。

◎ 7月7日(月)

「関西国際大学 大学見学・授業体験」

担当: 関西国際大学 教育学部

松尾 和宣 先生

- ◇教師の仕事について ・これからの先生の役割 ・高校生の今、何をする? ・学生発「防災教育」
◇卒業生からのお話 ◇施設見学

《講義・実習の様子》



《生徒の感想》

今回の講義を通して、教師の仕事には「未来をつくる」という大きな役割があることを学びました。今まで教師という仕事は「厳しい」「大変」といった印象が強かったのですが、子どもたちの成長に深く関わり、自分自身も一緒に成長していける仕事だという話を聞き、とても魅力的な仕事だと感じました。特に子どもと関わる中での感動や作り出す喜びを感じられることは、他の仕事ではなかなか得ることができない貴重な経験だと思います。また、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が重要となっていくことを知りました。そのような学びを支えていくためには、教師も変化に対応しながら学び続けることが大切だと思います。今回の講義で、今、高校生のうちにしておくべきことや「失敗を経験した人は成長する」ということを聞き、どんな仕事においてもチャレンジし続けることや学び続けることは大切だと思います。私も誰かの役に立つ存在になれるように積極的にチャレンジしたいと思います。

今回の講義を受けて「大学ってどんなところ?」ということから「先生の仕事」や「高校生のうちからするべきこと」など沢山の事を学びました。その中でも私が一番印象に残っていることは「先生」は仕事が多く、勤務時間も長くて大変なことも多いけれど、その分、感動が沢山あるということを知りました。子どもと一緒に成長できて、子どもの成長に携われるという教師の仕事に興味を持ちました。講師の方がおっしゃっていた「いっぱい笑うことが大切」、「たいていの失敗は成功につながる。失敗、挫折を経験した人は成長する」という言葉を聞き、この言葉は教師だけではなく、「仕事」をしている人には共通していると思います。私が目指している看護師という職業でも教師という職業でも、笑顔は大切に、仲間との会話はいい学びになると思います。今回学んだことは今後活かせると思うので、実践していきたいです。

「教師」についての講義で学んだことが多くありました。まず、講義の中で一番感心したのは「これからの教員の役割」という部分です。今の世の中はAIの発展により、技術が進んで、とても生活しやすい世の中なのかと思っていましたが、その中で大切に思ったのが、皆が同じではなく、個人に合った勉強のペースや方法があり、それを大事にするということです。人によって「個人差」があるので、それに合わせた教育を行うということが大切だと感じました。また、父は小学校教員だったので、毎日大変そうでしたが、子どもの成長を感じられる、やりがいを感じられるとても良い仕事だと言っていました。教員という仕事だけでなく、他の仕事にもいろいろな魅力ややりがいがあると思うので、どんな仕事でも「豊かな心と多様な経験」をすることが大事だと思います。私の将来の夢は幼稚園教諭なので、今回の講義で学んだことを大切に、一人一人に寄り添った教育ができるように頑張りたいです。

◎ 8月28日(木)

「森ノ宮医療大学 施設見学」

担当:森ノ宮医療大学 広報課

加藤 展裕 先生

◇看護医療分野ガイダンス ◇施設見学(キャンパスツアー) ◇森ノ宮医療大学紹介

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の講義を通して、医療職の魅力やチーム医療の重要性を学ぶことができました。森ノ宮医療大学ではチーム医療教育を重視していて、自分の所属する学科だけではなく、違う学科のことも学び、コミュニケーションを取る授業があることを知り、医療職に就きたい学生へのサポート体制が整っていると思いました。また、医療は知識や技術だけではなく、コミュニケーション能力も求められることを学びました。相手の立場に立って考える力が必要だということを知り、この力は私がなりたい保育士の仕事と共通していて、人と関わる上で大切な力だと思いました。コミュニケーションは、相手のことを知り、信頼してもらうために必要な力なので、どの職業にも欠かせない能力だと思いました。そして今回の講義で特に印象に残ったのは言語聴覚士の話です。言語聴覚士は患者さんと深く関わりながら「言葉」を使ってリハビリを行う仕事であることを知り、とても魅力を感じました。そして人にしかできない支援で患者さんをサポートするということにも魅力を感じ、より言語聴覚士について知りたいと思いました。今回の講義を受けて、医療職はやりがいや魅力がたくさんある仕事だと感じました。進路を考える上で、資格だけでなく、やりがいや意義も重視して考えたいと思います。

森ノ宮医療大学の強みであるチーム医療について、キャンパスツアーや大学紹介で感じる事ができた。キャンパスツアーでは、モニターで解剖を学ぶことができる機械を見た。モニターでは、筋肉や血管、内臓を実際に生きていた人の身体で確認できることに驚いた。また、人間のように腕で脈を測ることができたり、心音を聞いたり、声を出することができる人形をみる事ができた。モニターに心拍数も表示されていて、実際に人と話しているように感じたので、患者さんとの会話に慣れることもできると思った。集中治療室を模倣した教室では、心拍に合わせた音が鳴っていて緊張感を体験することができた。そして学科説明では、看護学科以外にもたくさんの学科があることを知った。どの分野でも必要なことや重要視されるものには共通点があると学んだ。例えばコミュニケーション能力は、その人の立場になって物事を考えられる力と同じという話では、確かに、看護でも教育や他の職業でも必要だと思った。学科説明や大学紹介では、社会に求められている力や、その力を身につけるためにどうするかという話もあり、自分が目指している学部や学科ではなくても、しっかり話を聞くことで知識をつけられた。

自分の興味のある分野について詳しく説明をしてくださったので、大変有意義な時間になりました。私は以前からスポーツトレーナーになりたいと考えており、今回の講義で新しい情報を得ると共に、より現実的な内容を細かく聞いたことで、進路を考えるうえでとても重要なことを知ることができました。今回の講義で行われた「チーム医療」の説明を聞いて、私の考えていた「チーム医療」が間違っていたことに気づきました。私は医者を中心としたチームだと考えていましたが、本当のチーム医療はすべての医療職が対等になり、患者を中心として優劣の存在がないものということを知りました。今回の講義で、将来の進路実現に向けて具体的な新たな考えを得ることができました。

◎ 9月11日(木) 25日(木)

「校外学習事後学習(発表)」

担当:本校教員

◇大学の施設見学・体験授業等を通して、学んだこと、感じたことを発表する。

(園田学園大学または関西国際大学または森ノ宮医療大学)

◇評価項目 ①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間

≪発表の様子≫



≪生徒の感想≫

本番は、練習通りの発表はできませんでしたが、伝えたかったことを言えたので良かったです。それは、教育や保育等の子どもと関わる仕事は、「子どもと向き合うことが大事」だということ、どの分野の職業でも何事もチャレンジすること、笑顔でいることをしっかりと皆に向かって伝えることができました。良かったところは伸ばしつつ、改善点はしっかり直して次の発表では、より良い発表にしたいです。

自分で考えた文章ですが、どうしても覚えにくいところがあり、何回も言い間違えてしまったり、緊張で声が震えたりしました。それは、今回の自分の発表が「伝える」ものではなく、「覚えたことを言う」という作業になってしまったからだと思います。他の人の発表を聞く中で「伝える」ことを大事にしている人は、自分の言葉でスラスラ話していました。次の発表では、私も「伝える」ことを意識して挑もうと思いました。

今回の他の人の発表を聞いて、ジェスチャーをしたり、話し方とか間を空けたりすることで、聞き手の感じ方は変わると分かった。聞いていて感じたことは、話すスピードが速すぎても遅すぎても聞き取りやすさが変わるので、話すのにも工夫が必要だと思った。また、文章の構成でも聞き取りやすさが変わるので、次は意識しようと思った。

他の人の発表を聞いて、自分にはない工夫をたくさん発見することができました。特に、身振り手振りを交えて話している人は、内容が分かりやすく、とても印象に残りました。また、私が詰まって焦ってしまった際に、笑顔で頷きながら聞いている人がいたのも印象的でした。私も聞き手の際には、気配りもしたいと思いました。自分と他の人を比べて、客観視して考えることが大切だと感じました。

自分の伝えたい事は伝えることができたことは良かったです。しかし、言葉が詰まったり、抑揚をつけることができなかつたり、視線を周りに向けず、一点を見てしまったので、次に向けての課題にしていきたいです。他の人の発表を聞いてみると、私との考え方の違いがとても参考になりました。考え方を共有することで、自分の考えの幅が広がると思いました。発表の仕方でも参考になりました。

自分の発表では反省点が2つあります。1つ目は言葉に詰まる回数が多かったことです。実際に声を出して練習をしていなかったことが原因だと思います。2つ目は皆の目を見ることができなかつたことです。自信がつくほど練習すればよかったと反省しました。皆の発表を聞いて、「話の構成」が上手だと感じました。結論を先に伝えることで、その後の話を頭に入りやすくする人、途中で伝えることで話を飽きさせないようにする人、最後に伝えることで注意を引く人、と工夫は様々でしたが、効果はしっかりと発揮できていたと思います。今回の反省を生かして、次回の発表の完成度を上げることができるよう頑張ります。

◎ 10月22日(水)

「大手前大学 国際看護学部施設見学及び体験学習」

担当:大手前大学 国際看護学部

藤井先生, 河井先生, 田中先生, 倉木先生

- ◇国際看護学部紹介、看護師の仕事について(藤井先生)
- ◇「高齢者を知ろう！」体験授業(河井先生, 田中先生, 倉木先生)
- ◇施設見学

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

私は以前から外国での看護に興味がありました。今回、大手前大学で国際看護について学ぶことができ、より興味を深め、自身の選択肢が広がりました。私が国際看護学部で感じた魅力の1つは海外実習です。将来、外国で看護職に関わる場合、アジアでの海外実習というのが一番可能性が高くなると思うので、とても自分のためになるのではないかと感じました。先生の話を受けていると看護職に関わっていることにプライドが感じられて、大学や国際看護学部の魅力だけでなく、看護職に就くための心持ちや、看護の現在から将来の需要、現実まで話していただき、改めて自分のやりたいことを再確認し、自分はどんな看護師になりたいか、看護師を目指したときの気持ちを考え直すことができ、自分のやりたいことが整理できました。今回の講義を通して、最終目標を大学入学ではなく、入学して何を学ぶか、将来どう働いていきたいか、先のことまで考えるきっかけになりました。

私は大手前大学について興味を持ちました。なぜなら、国際看護学部には、身につける3つの『ちから』を中心に、将来の夢に必要な体験ができる実習の様子を見て、他の大学ではできないような経験が積めると感じたからです。特に国際力では、海外の看護施設に行き、日本以外の国の人との交流を深めながら、看護を学べる場があることで、海外で起きている紛争や環境問題を理解し、看護が大切にしている「どの国の人でも差はない。全ての人を助ける。」という考えを、より深く経験して学べると思ったからです。また、高齢者の見え方や聞こえ方を実際に経験して、色の区別が難しく、また、文章にある、は行、た行、さ行、か行は、別の行に言い換える工夫をすると分かりやすくなりました。高齢化が進んでいる今の社会は、このような知識を活用することで、高齢者との関わりが増えると思います。今日、学んだことを人とのつながりで活かして、高齢者が過ごしやすい工夫をすることが大事だと思いました。

国際看護学部の講義を受けて、看護はいろいろな人の命をあずかる為、大変な職業だと改めて思いました。大手前大学では、国際力を身につけられるのが強みである為、コミュニケーション能力が必要で、日本語だけではなく英語や他国の言語を話せることが鍵だと感じました。特に心に残ったのは、看護職に就いている人の「命の重さは皆一緒」という考え方です。看護では、多様性がとても重要であり、看護やケアの場面で相手の立場や文化の違いを理解することが大切だと学びました。白内障の体験では、黄色いフィルムを通して見ると視界がかすんで見えづらく、色の判別もしにくく分かりました。難聴体験では、音がこもって聞こえにくく、音声の内容を理解するのが大変でしたが、「しちじ」を「ななじ」と言い換える等、伝え方を工夫することで聞き取りやすくなると知り、相手に合わせたコミュニケーションが大切だと思いました。今回の体験を通して、看護職には患者さんの立場に寄り添い、一人一人に合った対応を考える力が必要であり、仕事の責任の重さを改めて実感しました。

◎ 11月20日(木)

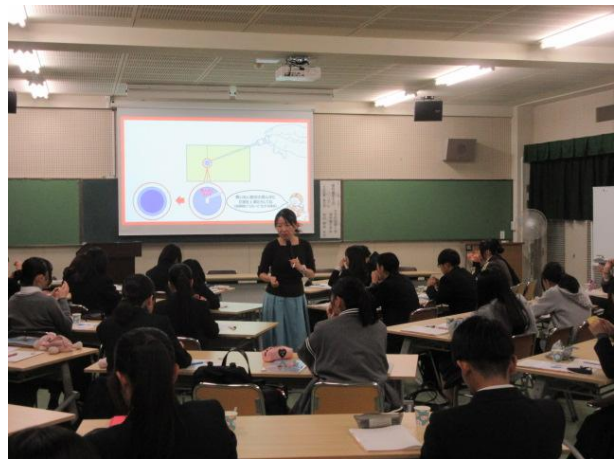
「歯科衛生士のリアル～予防医療の最前線～」

担当: 大手前短期大学 歯科衛生学科

神田 恵実 先生

- ◇ 歯科衛生士の3大業務 歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導 ◇ RDテスト
◇ 求人倍率・働く場所 ◇ 歯科衛生士1日の流れ ◇ 大学での履修科目・国家試験

《講義の様子》



《生徒の感想》

講義を受ける前は、歯科衛生士は歯の健康を見る仕事だと思っていましたが、今回の講義を受けて思った以上に奥深い仕事なのだを知ることができました。例えば、患者に虫歯菌がたくさんある場合には、「甘いものを食べる時は、一度に食べたほうが良いですよ。」と食べ方の工夫をアドバイスしたり、患者さんがまた歯医者に来てくれるような声掛けをして指導したりと、歯の知識以外にも患者とコミュニケーションをとる力も必要だと思いました。コミュニケーション力は、今からでも身につけられるので、たくさんの人とコミュニケーションをとっていきましょうと思います。大手前短期大学では、模型で練習してから、実際に友達の口の中で実習をします。本番に近い形で学べるので、自分に力がつきやすいと思いました。今日の学びを通して、自分の将来の幅を広げることができたと思います。

本時の講義で、2つのことについて学ぶことができました。1つ目は歯科衛生士の仕事についてです。歯科医師の補助というイメージがありましたが、自分の担当患者さんを持つことがあったと知りました。また、介護保健施設で働く際には、あごのトレーニング方法を教えたり、定期検診では虫歯になりかけている歯がある場合に気をつけるべき点や虫歯になりにくい歯を目指したりと、虫歯の治療以外にも役割があることを知りました。2つ目はメンタルサポートを行っていることです。講師の先生の体験談を聞いて、患者さんそれぞれの不安を無くし、これからも通い続けたいという気持ちを持たせることが大切だと知りました。この2点から、歯科衛生士は患者に寄り添いながら健康を支える存在であり、虫歯を予防する大切さを広める大きな力を持っていると考えました。また、自分自身も一層、日々のケアを意識づけて、歯を大切にしていこうと思いました。

私は今回の講義を受けるまで、歯科衛生士は歯科医師のサポートをする職業だというイメージがありました。その為、歯科衛生士が担当の患者を持つことを知り、驚きました。私が一番印象に残った話は、虫歯によって歯が溶けてしまった子どもの話です。私はこの話を聞いたとき、「保護者はどうして子どもがこのような状況になってしまうまで、受診しなかったのだろう」と思いました。講師の先生は、「ここで保護者を責めてしまうと、もう受診してくれなくなるかもしれない。だから責めるのではなく、受診してくれた勇気を褒める」と仰っていました。こういった考え方は、歯科衛生士に限らず、他の医療職でも重要だと感じました。また、歯科衛生士は患者さんの口腔内のメンテナンスだけでなく、心のケアも行う職業だと知りました。「虫歯にならないように考えていくことが歯科衛生士の役割」と先生が仰っていたため、歯科衛生士は患者さんの人生に長い間、関わる職業だと思いました。「治療をして終了」なのではなく「予防」ができる点が他の医療職にはない歯科衛生士の魅力だと思いました。

◎ 11月27日(木)

「校外学習事後学習(発表)」

担当:本校教員

◇大手前大学の施設見学・体験授業を通して、学んだこと、感じたことを発表する。

◇評価項目 ①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間

≪発表の様子≫



≪生徒の感想≫

今回、初めて発表したので、とても緊張しましたが、練習通りの時間配分でできた点が良かったと思います。キーワードを決めて、そのワードに沿って話せるように練習をしていたので、詰まる場面が少なかったです。反省点としては、全員とのアイコンタクト、ジェスチャーです。アイコンタクトを特に意識して取り組みましたが、左右にいる人への意識が薄れてしまいました。ジェスチャーもできていなかったなので、反省点を次回に活かしていきたいです。

今回は、全員同じ大手前大学の校外学習についての発表でしたが、人によって学べたこと、印象に残っていることが違い、自分とは異なる視点で学んだことを振り返ることができました。さらに看護以外の職業を目指している人も、今回の学習を自分の目指している職業に結びつけて考えている発表が多くありました。次回以降、自分が目指している職業以外の講義を受けるときに注目すべき点の学びになりました。学んだことをこれからの講義で活用していきたいと思います。

他の人達の発表を聞いて、発表の仕方にはそれぞれの工夫があることに気づきました。特に、聞き手にしっかり目配りをしている人の話には引き込まれ、とても印象に残りました。また、笑顔で発表している人は印象が良く、内容もより伝わりやすくなると思いました。さらに、「1つ目、2つ目」を手で表現すると話の順序が可視化され、分かりやすかったです。他の人の発表を聞くことで、自分の発表にも取り入れたい工夫がたくさん見つかりました。

今回の発表を聞いて思ったことは、出来事を話すのではなく、そこから得た自分の学びを発表すると相手に伝わるとことです。皆、同じ体験をしていますが、そこからの学びは異なります。人によって気づくところや大切に思うことは違うので、それを共有することは自分では気づけない新しい視点を知り、自分の成長にも、ヒューマンクラス全体の成長にもつながると思いました。これからは、新しい気づきを共有していきたいです。

練習ではスムーズに言えていた部分が、本番になると言葉が飛んでしまいました。練習でできていたことが本番で発揮できなかったのは、練習量が足りていなかったからだと感じました。繰り返し練習することの大切さを実感しました。クラス全体の取り組みを通して、同じ内容を学んでも、一人一人が捉えたことや感じたことは異なる点が印象的でした。他の人の発表を聞くことで、自分にはなかった視点に気づくことができ、同じ学びでも多様な考え方があることを理解しました。また、人前で話すという活動を通して、聞く側の姿勢も大切だと改めて感じました。発表者が話しやすい雰囲気をつくることを意識しようと思いました。

◎ 12月11日(木)

「関西学院短期大学 施設見学及び模擬講義」

担当: 関西学院短期大学

堀井 康利 先生, 森 知子 先生

- ◇ 大学説明 ◇ 学内見学 おもちゃとえほんのへや、図書館、リプラ、ミュージックラボ、聖和の森など
- ◇ 「保育における数遊び～感覚で育む数量の学び～」(森 知子先生)

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を受けて、子どもは遊びを通して数量感覚を学んでいくことが理解できました。今までは「学ぶ」と言われると、誰かから教えられて覚えていくというイメージがありました。ですが、遊びを通して徐々に理解していくことは数量感覚に限ることではないと思います。子どもは遊びを通して、自分で考える力や問題解決能力など、たくさんのことを身につけていくのではないかと思います。子どもだけでなく、大人も、経験の中で学んでいくことがたくさんあります。そのため、子ども、大人関係なくたくさんを経験していくことが大切だと気づくことができました。また、先生が『『遊び』は、生きるために必要な感覚を身につける最も大切で楽しい『学び』とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。私は今まで「遊び」と「学び」を結びつけて考えたことがありませんでした。ですが、「遊び」は学ぶための一つの方法なのだと知りました。「遊び」は楽しみながら学ぶことができるととても素敵なものだと感じました。

「数」は私たちの生活に欠かせない、とても身近なものです。物を数えるときや時間など、様々なところで数を活用しています。数量感覚には、1,2,3といった数や、長さ、広さ、重さといった量、丸や四角といった形、前後、上下、左右といった空間などがあることを学びました。その中でも、子どもには左右が特に難しく、靴を左右逆に履いてしまったりすると知りました。しかし、信号を渡る際などの安全教育の場では、左右が重要になってくるため、教える時に工夫が必要になると思いました。数量感覚は自然に意味のある方法で身につけることが大切であり、「わらべうた」などの歌で数を身につけ、「かくれんぼ」や「かごめかごめ」、積み木、ボール遊びなどで空間認知を養っていると学びました。子どもはただ遊んでいるのではなく、その「遊び」を通して、数量という大切な感覚を言葉と結びつけて理解していると知りました。数量感覚の他にも言語感覚など、生きるために必要な感覚を成長に合わせて育てるために「遊び」が持つ役割を学びました。この学びを次の学びに活かし、将来に向けた準備につなげたいです。

関西学院短期大学は、自然豊かで、保育園や幼稚園が敷地内にある珍しい大学だと思いました。日常的に子どもと触れ合う機会があり、関西学院幼稚園と聖和乳幼児保育センターで参観実習ができることは、他の大学では体験できない魅力だと思いました。今回の講義は、“一対一対応”や“集合数”、“子どもは立体を覚えてから平面を覚えること”や“4歳頃から物事を客観視できるようになること”など、新たに知るものが多くとてもためになりました。そして、「遊びは楽しい学び」という言葉が心に残りました。子どもたちの普段の遊びが学びに繋がっていると思うと、保育者は子どもの成長のために、自然に数量を学ぶことをサポートしてあげる立場であることを改めて感じ、保育士になるには責任をもって子どもと関わることが必要だと思いました。保育士になりたい私にとって、今回の講義は特に興味深く、より一層、保育士に対する気持ちが大きくなりました。

◎ 1月15日(木)

「伊丹市子育て支援センターの役割と親子の遊び」

担当: 伊丹市子育て支援センター

道添先生, 大田先生

- ◇ 「子育て支援センター」ってどんなところ? ◇ 事業紹介と子育て支援拠点
- ◇ 親子遊びを体験(リズム遊び、新聞紙遊び、絵本の読み聞かせ、パラバルーン)

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回、子育て支援センターについて学び、センターの存在の大きさを実感しました。子育て支援センターは、ただ遊べる場所ではなく、親子や他の親子との交流を通して、悩みや不安を相談し合える場所、お母さん、お父さんなど子どもを育てる方にとって安心できて頼ることができる場所であることを知りました。実際に行われている遊びを体験する中で、先生たちの声掛けや接し方が、遊びが楽しいと思える気持ちに直結していると思いました。先生が率先して楽しんで、笑顔で周りに声を掛けることで、自然とリラックスし、遊びを楽しむことができ、子どもや親の楽しめる、気軽に相談できる環境を生み出していることに気づきました。特に絵本の読み聞かせでは、まっすぐに「大切」や「味方」と伝えてくれることがとても心に響きました。同時に、親にとって先生方は、とても重要で助けてくれる存在であることを実感しました。今回の講義では、人と関わる上で安心させる話し方や接し方を学ぶことができ、先生方の工夫や思いを知ることができました。

私が今回の講義で学んだことは2つあります。1つ目は保護者の方や子ども達と関わる時に、何を大切にするかです。今までは子どもと上手く関わるのが大切だと思っていましたが、保護者の方の要望をできるだけ叶えて、保護者の不安をなくせるような幼稚園教諭になりたいと思いました。また子どもと接するときには、子どもの背景を考えながら話すことが大切だと分かりました。子育て支援センターに来る人は外国籍の方もいるので、英語もできるようになりたいと思いました。2つ目は子どもとの遊び方です。子どもと遊ぶときには、体を大きく動かす遊びをします。ですが、同じような動きをしていると子どもも飽きてしまうので、途中で道具を追加したり、曲を変更したりするなどの工夫が大切だと学びました。また、次の遊びに繋げることも大切だと思いました。例えば、新聞紙で遊んだ後は破ったり片付けに使ったり、パラバルーンに入れてみたりすることで資源を活用できると気づきました。今回、実際に体験してみることで、自分が幼稚園教諭になったときに、どう動いたらいいのか、どんな遊びが喜ばれるかをしっかり学びました。

今回の講座を受けて子育て支援センターの魅力について知ることができました。私が魅力だと感じたのは、「親子で遊びに行く」という目的以外でも「相談」という形で利用できることです。イライラや不安、悩み事など、一人で抱え込むより誰かに話した方が楽になります。それに加え、同年代の子を育てている周りのお母さんはどんな風に育てているのかなど、知りたいことが聞きやすい環境で聞けることに一番の魅力を感じました。また、遊ぶだけでも子どもの成長を感じることができると改めて気づきました。新聞紙を折ったり広げたり、破ったりすることで、子どもにとって新しい経験が生まれます。そして遊んだ後は片付けをするということも、遊びの中で気づき成長できます。子どもの成長を見守れる保育士を目指すために、さらに勉強したいです。

◎ 1月29日(木)

「1年のまとめと来年度に向けて」

担当:本校教員

◇ 「1年のまとめ」アンケート



《1年間の反省・感想・印象に残ったこと》

一番印象に残っている講義は、「関西国際大学」の校外学習です。講義を受ける前の私は、将来なりたい保育士について表面的な仕事内容しか知りませんでした。しかし、講義を受けて、保育士には子どもの成長に携わるからこそ得られる、創り出す喜びや、子どもと一緒に成長できるやりがいがあることを知ることができました。1年を通して、1つ1つの講義で学べる知識を自分の力に変えることができたと思います。

総合ヒューマン類型の講義に参加し、多くのことを学ぶことができました。大学見学では、実際に授業を体験したり、施設を見学して大学で学ぶ意義について考えることができました。講義では、実際に働いている方々の話を聞くことができ、各職業の良いところや、働いている方々の心情についても知ることができました。私が希望している分野以外の職業でも、私にどう活かせるか考えました。総合ヒューマン類型での活動は、私の想像以上に多くのことを吸収できる機会であり、私の成長につながった時間だったと感じます。

この1年間は、たくさんの園児たちと関わる機会がありました。その中で一番印象に残ったことは、ヒューマン類型に入学して、初めに園児たちと関わった園田学園大学です。初めは緊張でなかなか声を掛けることができず、ただ園児たちの横にいただけで、馴染むのに時間がかかりすぎてしまったことを後悔しています。このことがあってから、園児たちと関わる機会では、勇気を出して積極的に声を掛け、園児たちとの関わり方について学ぶことができました。私にとって、園田学園大学での出来事は、後悔もありますが、勇気を出せたきっかけなので、印象に残っています。

一番印象に残っていることは、関西学院短期大学で、実際に子どもたちが遊んでいるおもちゃで遊んだことです。いろいろなおもちゃで遊んで、楽しむだけではなく、遊びから学びを得られるということを経験し、実感することができたからです。また、関西国際大学では、小学校と同じような教室や、設備が整えられており、小学生の目線に合わせた工夫がされている点が印象に残りました。実際の教室と同じような環境で学べることで、教師という仕事への理解が深まったと感じました。

この1年間を通して、私は自分の視野がとても広がり、たくさんの職業を知ることができました。総合ヒューマン類型に入る前は、訪問看護師になりたいと思っていました。しかし、他にもいろいろな職業の話を聞き、体験することで、訪問看護師以外にも私のやりたい仕事はあるのかもしれないと感じ、自分の将来を見つめ直すきっかけになりました。また、講師の方の話を聞きながら、メモをすばやく、分かりやすく取ることができるようになりました。これからは、感想も上手く書けるようにしていきたいです。

私が特に印象に残っているのは、大手前大学での模擬授業で国際看護について学んだことです。「多様な患者の命の平等さ」という言葉を聞いて、とても大切なことだと思いました。国際看護という新しい将来の選択肢が増えました。1年間の授業や体験を通して、私はどの分野でもコミュニケーション能力や相手を思いやる気持ちの大切さが共通していると気づきました。また、発表では、他の人の発表を聞くことで、これまで自分が意識していなかった視点や考え方があることに気づくことができました。

私の1年間を振り返っての反省は、事後学習の発表です。校外学習で学んだことは多く、濃いものでしたが、準備不足で本番では内容をうまく話せず、しどろもどろになってしまいました。これから先、プレゼンをする時に必ず役立つ経験だと思うので、次の発表の時はしっかりと分かりやすく、満点をもらえるようなものにしたいと思います。印象に残ったことは、園田学園大学の校外学習です。実際に子どもたちと関わってみることで、話し方や目線、話すテーマやリアクションなど、改善できる部分を多く見つけることができました。これらのことを来年も忘れずにいようと思います。

ヒューマン特別講座に参加して初めて聞いた校外学習の発表が印象に残っています。校外学習で学んだことをスラスラと話している姿をたくさん見て、すごいと感じ、そして良いところは自分の発表に取り入れようと思いました。発表の日は、緊張して止まってしまいましたが、自分の伝えたいことはすべて伝えることができたので良かったです。少し時間がかかりすぎてしまったところや止まってしまったという反省は、次の機会に活かしたいです。何度か校外学習に参加して、それぞれの大学の魅力を見つけることができました。それぞれの大学で学べるのが違い、どんなところが自分の学ぶ場所にとって最適かを考えることが大切だと感じ、これからは活かしていきたいと考えました。

1年間を通して、初めて学ぶ専門的な分野や、目指している保育の分野について詳しく知ることができました。仕事の内容だけではなく、それぞれの職業のやりがいや工夫している点を知識として、取り入れることができ、とても成長したと感じます。毎回書いている感想についても、学んだことや感じたことをどう活かしていきたいかをまとめることが上達したと思います。また、看護、医療、福祉の分野についても興味をもって、講義を受けることができ、保育分野とのつながりを意識して学ぶことができたと思っています。

1年を通して、どの分野にも共通して「相手を思いやる心」があり、その重要性を改めて学ぶことができた。特に印象に残っているのは、保育の分野で、子どもや支援を必要としている人に対して、ただ手助けをするのではなく、どのような言葉かけをして、どのような表情で接することが相手の安心に繋がるのかを考えるきっかけになった。この1年で、4つの分野それぞれが担っている仕事の重要性に触れることができて、進路に対する考え方が大きく変わった。

《来年度に向けての意気込み》

今年度と比べて、より多くの時間で自身の将来について向き合え、同じ夢を持った人たちと一緒に学べる機会がさらに増えるので、今年度より深く学び、自分の成長につなげられるように努力していきたいと思います。また、看護師についての体験や学ぶ機会は、積極的に参加していきたいと思います。

来年度はより進路を意識して、自分に合った職業を見つけていきたいと思っています。そのためには、自分の特性を理解して、講義を受けた際に、その職業に向いている人の特徴と照らし合わせながら、自分に向いている職業を考えていきたいです。そして主体的に行動する姿勢を大切にしていきたいです。

来年度は授業や発表など一つ一つ前向きに取り組みたいと考えています。また、今までは1つの視点で考えていたので、いろいろな視点から考えることを大切にしたいです。そして自分で考えたことや気づいたことをうまくまとめて言葉にする力を養いたいです。

今年1年のヒューマン特別講座を通して、メモをとる難しさに気づきました。講義ではしっかりとメモをとり、学びを深めていきたいです。そして部活動も勉強も両立した1年にしていきたいです。

来年度は、今年度の反省を踏まえて、何事にも計画性をもって取り組むようにしたいです。特に発表の時は、事前準備をしっかりと行い、話す内容や時間配分を意識しながら緊急の中でも自分の考えを伝えられる力を身につけたいです。授業や講義では受け身にならず、自ら考え、理解を深めていきたいです。そして、オープンキャンパスにも積極的に参加し、目標に向かって成長できるよう、得た経験を活かしていきたいです。

《進路実現に向けて、これからの取り組み》

看護師になるためには、学力をつけることが大事だと思うので、コツコツ頑張りたいです。そして、人に寄り添う仕事だからこそ、今のうちからたくさんの人と関わり、コミュニケーションをとっていきたいです。

必要な資格や能力、現在目指している職業についている人達からのアドバイスなどを、人脈や SNS を使って調べ、学校でもできる努力をして実行する。
